



I GOT IMMOBILIZED
INTO A GAY RING WORLD

…なんで？

なんでこんなに
魔物が出るのーッ!?

とりあえず
このすきに
前回のあらすじ
やっときますねー

おいこら
天の声!!!

ここは
ゲイ向けRPGの
世界

主人公
萩洋一が
なぜこんなところに
いるのか

それは

今悠長に前回までの
あらすじしてる
場合じゃねえだろ

あろうことか
歩きスマホをして

トラックに轢かれ
事故死したことから
始まる！

だから
今魔物襲って
きてんだってば！
こんな時にやめろ
前回のあらすじは！



突如として
聞こえた
天の声(つまり私ですが)の
導きにより

死んだと
思っていた
萩洋一は

転生すること
なった！



大地に宿る

しかも
このゲイ向けRPGは
実は天の声(私ですが)により
制作されたもので

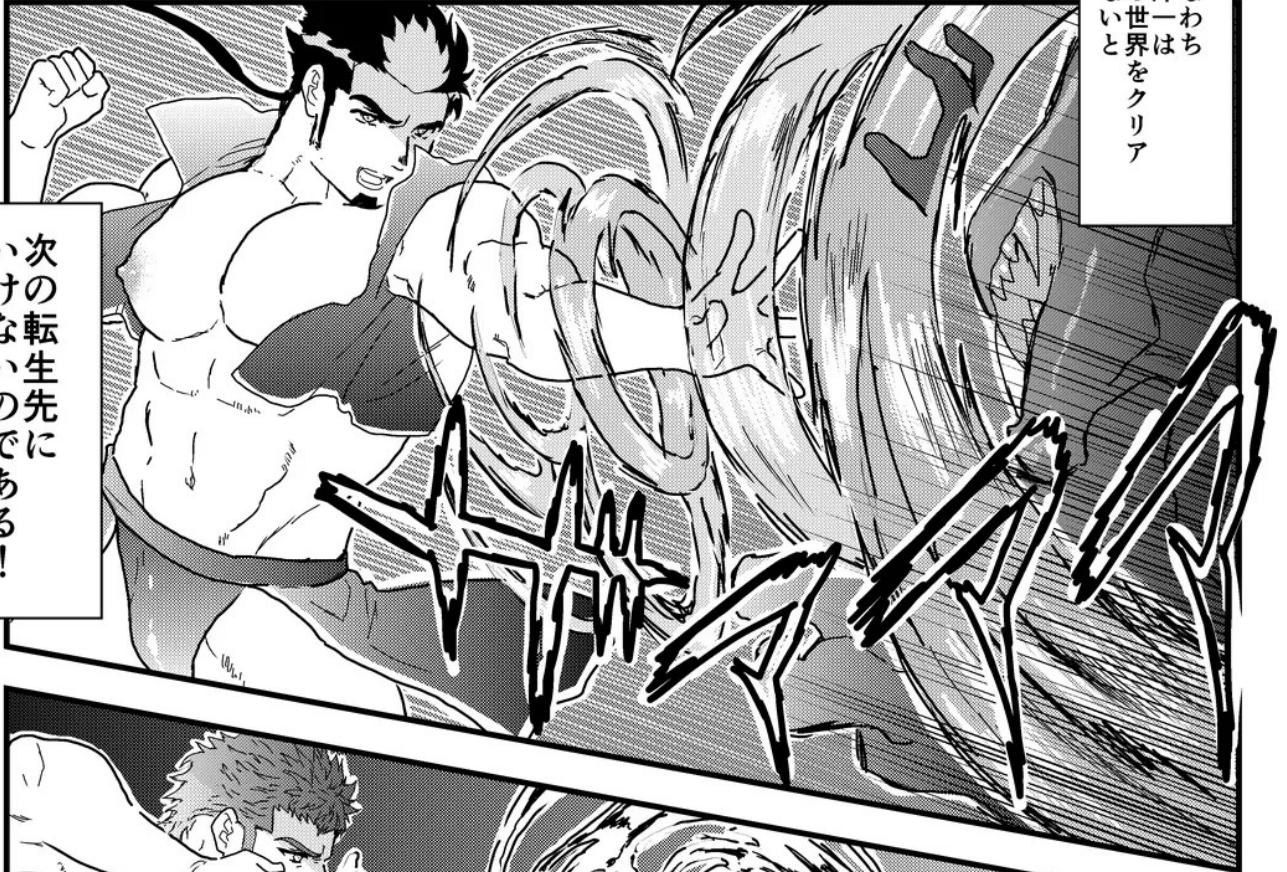
今こそ我の
体に宿り
解き放て

魂をサルベージ
出来るゲームに
なっている

あのお
今ミカエラさんが
呪文唱えてんだから
セリフ被せんって

すなわち
萩洋一は
この世界をクリア
しないと

次の転生先に
いけないのである！



お前の
セリフ被せは
とどまることを
知らないな



何故か
この世界では
勇者の証と
されており

しかも
彼のつけていた
ネクタイピンが

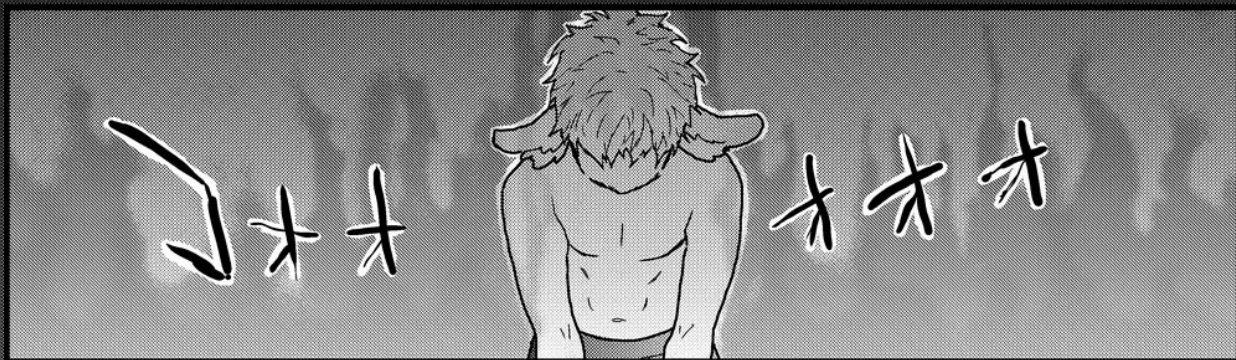


好き勝手放題
エロいことを
する萩洋一!!!

それをいいことに
この世界の
キャラを使って

うるせえな
そこはいいだろ
別に







乞うご期待!

ほんと全部に被せて
きやがったな



そうですか……
また動きがあるようなら
知らせてください

私も彼については
調べていますので



そういうえげ
「黒の存在」に
ついて

あれから
動きは
ないですか?

……ああ
まったく



ということ
私こと天の声は
今絶賛寝不足中なので

こころへんで
失礼して
寝ます

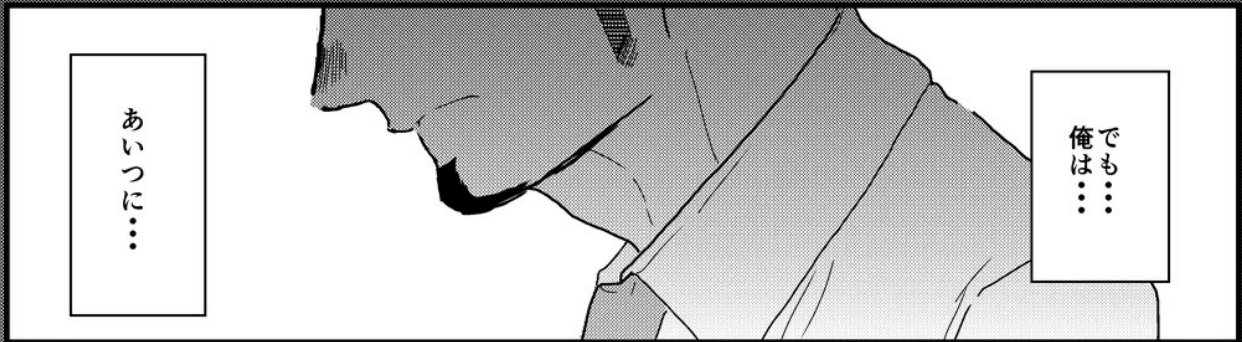
さっさと消えやがれ
邪魔だけしやがって



黒の存在

この世界には
天の声も作っていない
謎の敵がいる

…そう



あいつに…

でも…
俺は…



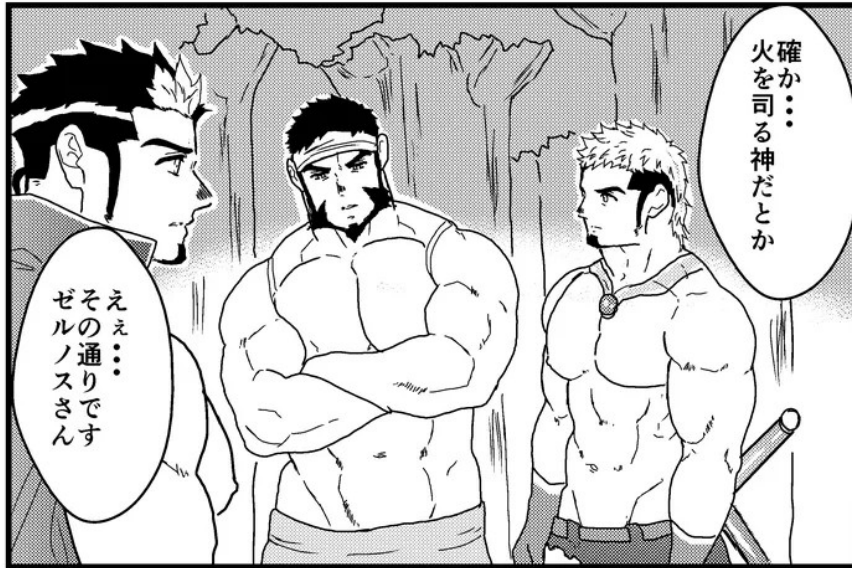
お前にはまだ
目覚めていない
力がある…

唯一この世界を
脅かすものと
対峙できる
未知の力…



強くなれ

萩洋一



確か…
火を司る神だとか

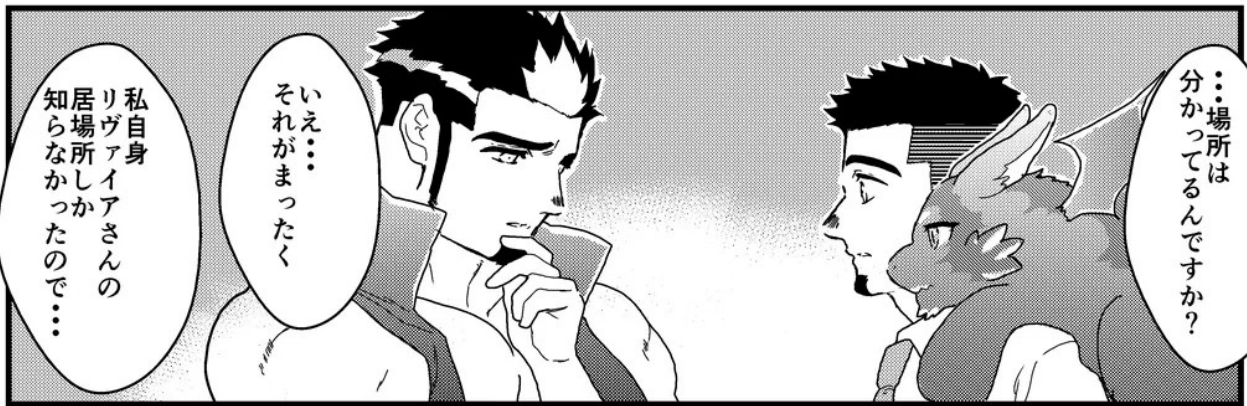
ええ…
その通りです
ゼルノスさん



ところで
ミカエラ

次の神が
最後になるんだよな？

…はい
ガルグさん



…場所は
分かっているんですか？

いえ…
それがまったく

私自身
リヴァイアさんの
居場所しかなかったの…



場所なら
俺たちが
知ってるぜ

この世の
三大神である
私たち

私の真の姿である
水の神
リヴァイアサン

この俺の真の姿
地の神
タイタン

そして残るは…

火の神
プロメテウス

タイタンさん…



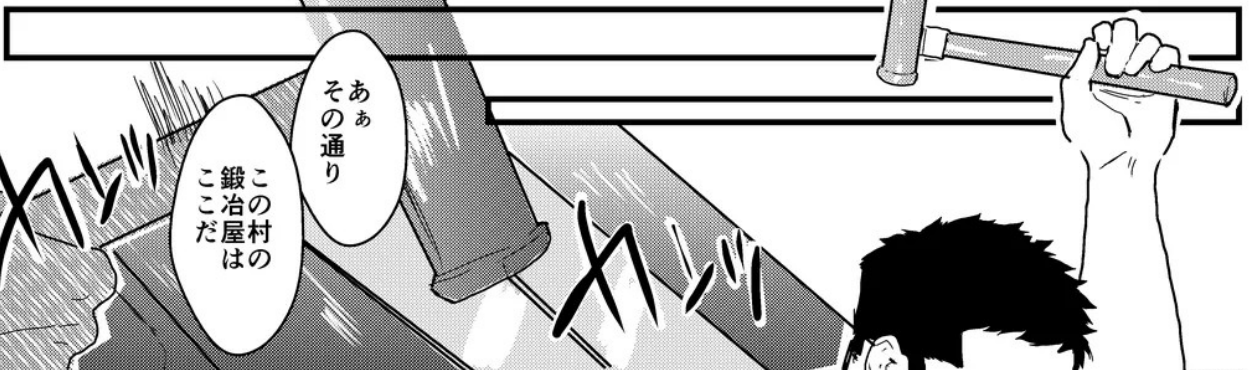


あなみに

ハギユョーグって
この世界での
俺の名前です

なんか
伝説の勇者は
そう呼ばれる
みたいですよ

…誰に
話しかけている？
勇者…



ああ
その通り

この村の
鍛冶屋は
ここだ

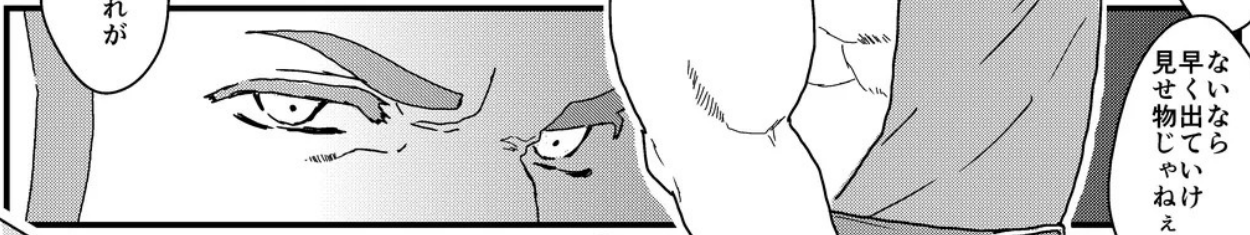


このを剣を
直してほしんだ

ぶっ…
ぶっ…
ガチムチ鍛冶屋…♡

刃こぼれが
酷い

何か用か？

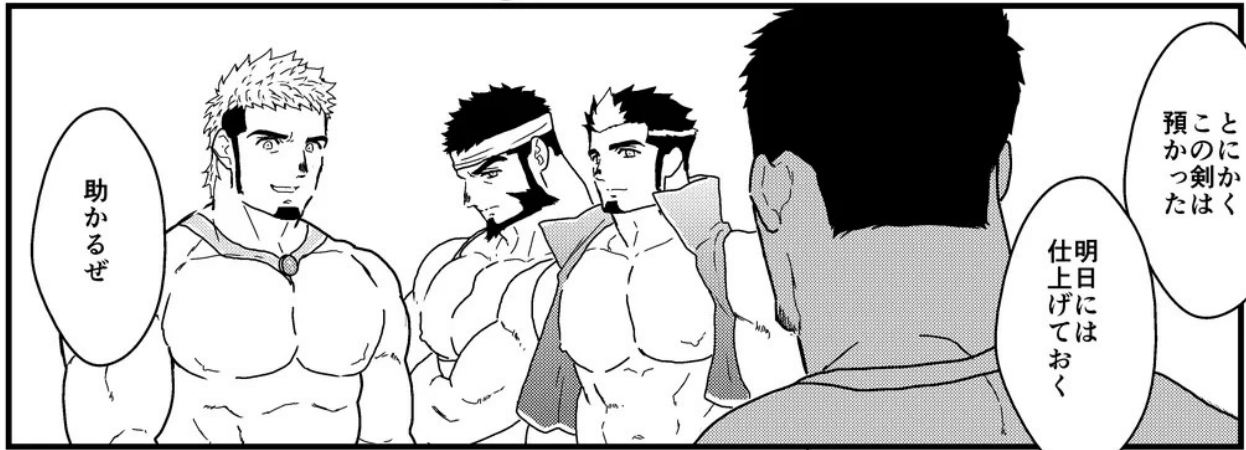


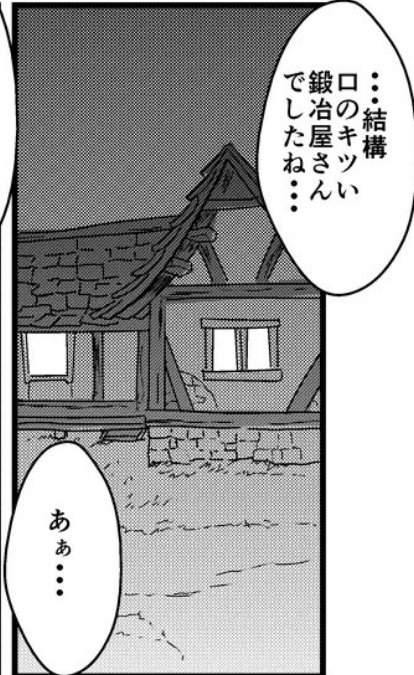
ないなら
早く出ていけ
えんだ
見せ物じゃねえんだ



…確かに
これじゃあ
2、3回も
振れば

使い物に
ならなく
なるな





…結構口のキツイ鍛冶屋さんでしたね…

ああ…

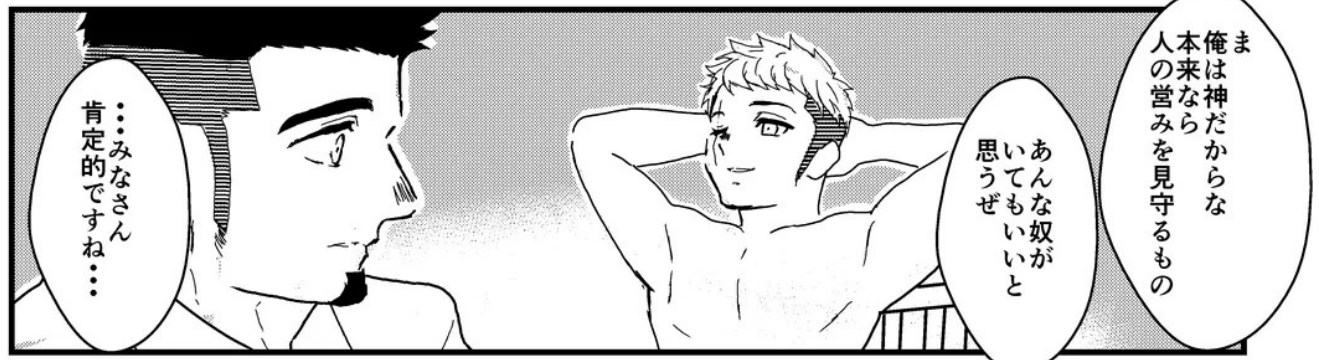
しかし本物の職人とは本来あいう人柄をさしているのかもしれない

ああ俺も別に嫌いやないぜあいう奴は



私も自分の仕事にしっかりと責任を感じ取れる姿が

俺も拳に鍛錬を積む身…似たものを感じる



ま俺は神だからな本来なら人の営みを見守るもの

あんな奴がいてもいいと思うぜ

…みなさん肯定的ですね…



勇者様はそうでもないのでですか？

俺はどっちかかっていうと体つきや顔つきだったり



…なにを言っている？

あとはあのおつきらぼうな性格が夜になると甘えた声で「俺…我慢できねえ」なんて言ってる喘ぎ抱きついてくる色っぽい姿だったり…



…勇者よ…

まさかおめえ…

ち…違いますよ！や、やっぱ職人すげーつすよねマジリスベクト！

と…とにかく
今日は寝ましょう！

明日
ガルグさんの
剣を取りに
行かないと…ッ

そうだな！
明日が
楽しみだ！

ゆっくり
体を休めることに
しましょう

ああ…
また魔物が
襲ってきたときの
ために
拳を休ませて
おくか…



言っただろ...?
おめえとの
交わりが
忘れられねえってよ...

それに...

俺という神を
差し置いて...ッ

あの鍛冶屋の男を...
エロい目で見やがって...ッ

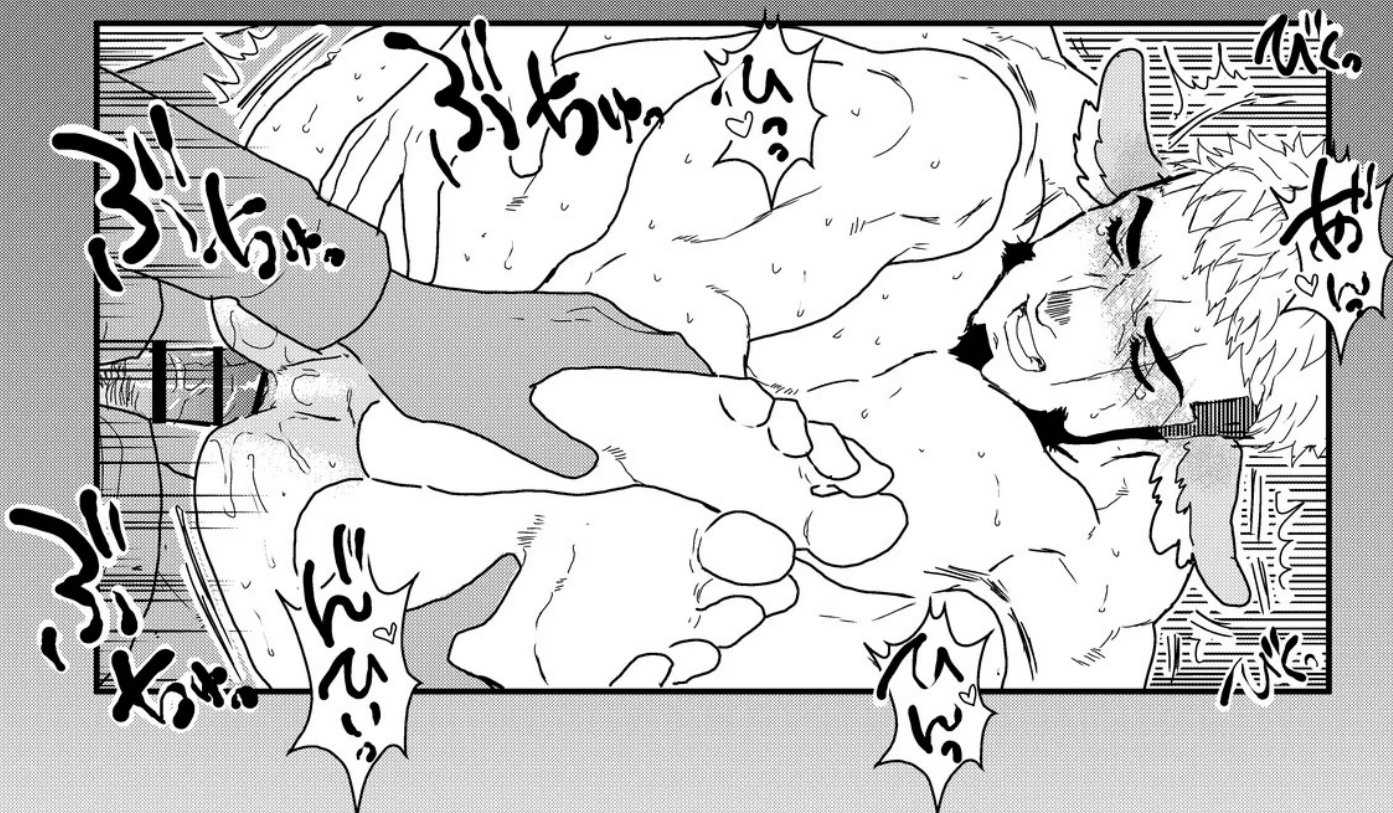
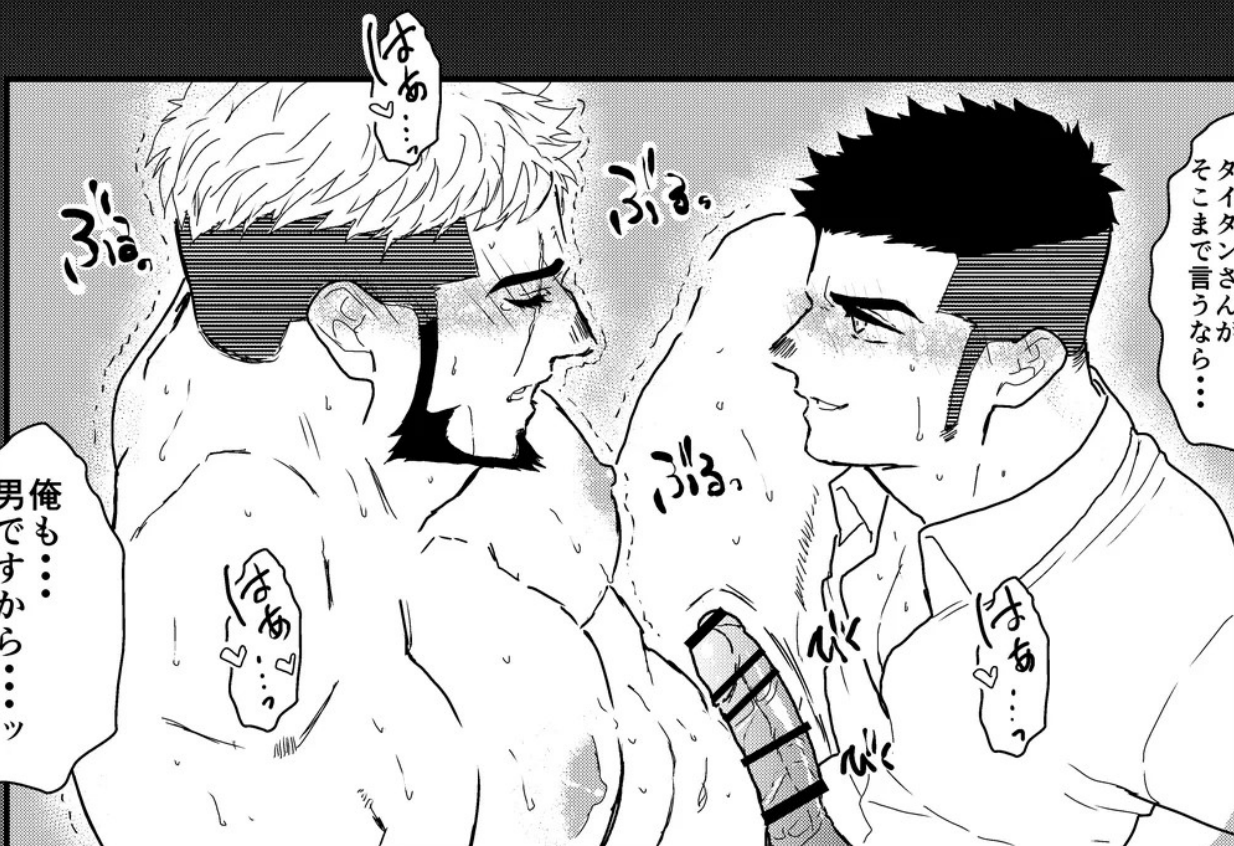
おめえに
分らせてやる...ッ

俺がどれだけ
おめえのことを
欲してるのかをよ...ッ

なんということだ...

今までこんな
タイプな男に
取り合われたことのない
俺が...ッ





り…
りヴァアアアさ…ッ

言っただ
タイタン

こやつは
私の勇者でも
ある

決して
許さぬと…

…けッ

見ろよ…

今勇者は
俺に興奮してる

かたあい肉棒が
ずっぽり
奥まで入って
腹が苦しいくらいだ…

おめえには
何の関心も
ねえんだよ…





…ならば
決めてもらう
までだ

あ…あの
リヴァイアさん…

これは…
違う…ッ

そうか

…へ?



リヴァイアさん…?
口調が…

だから
嫌いなんだよ
おめえは

すぐ
キレやがる…



四の五の
言うんじやねえ!

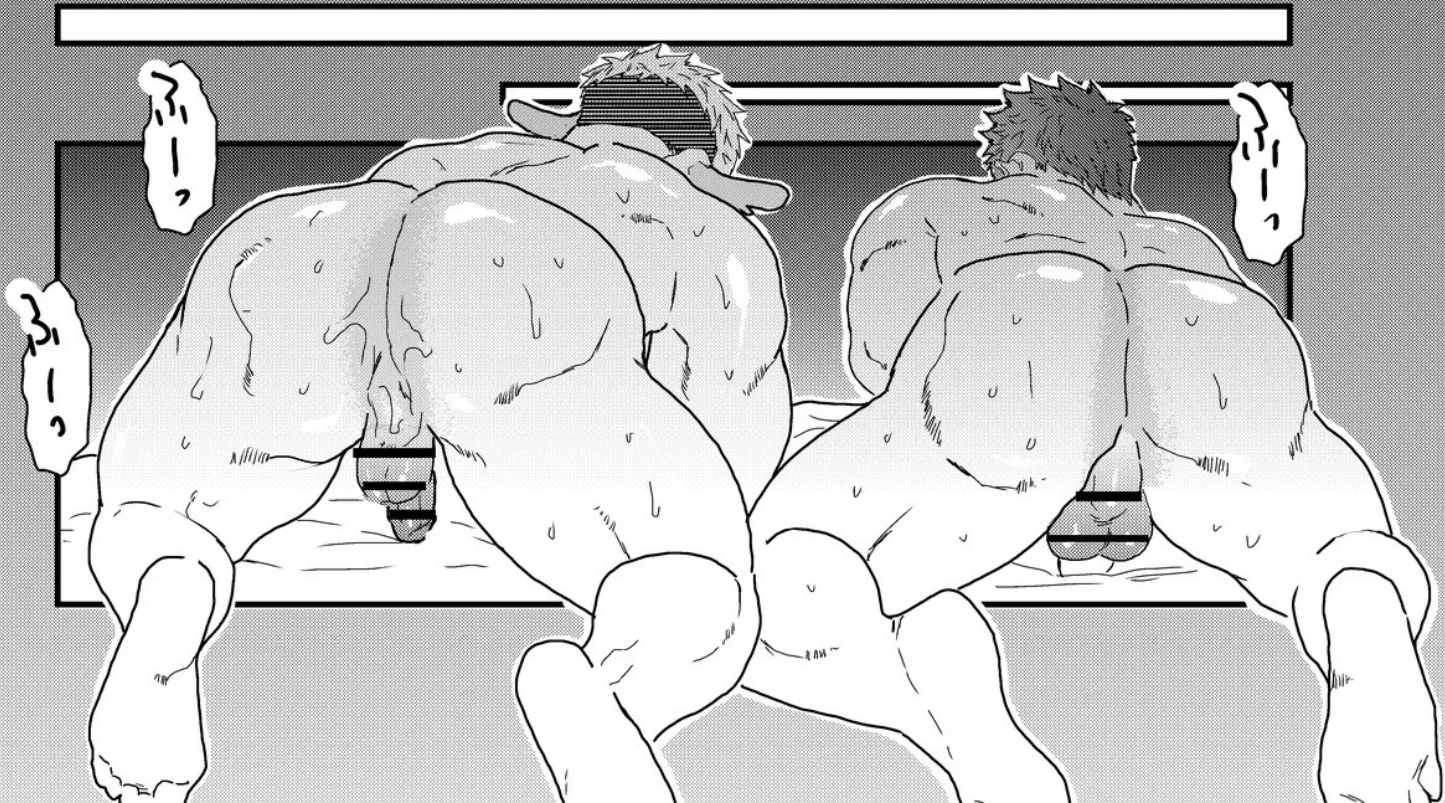
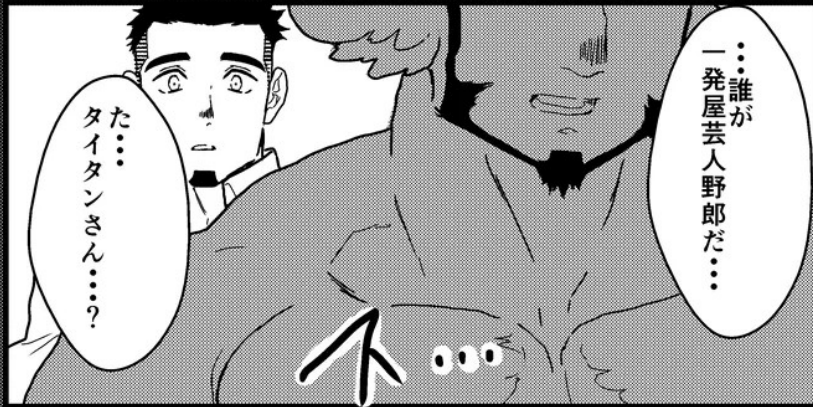
早くしやがれ
一発屋芸人野郎!!!

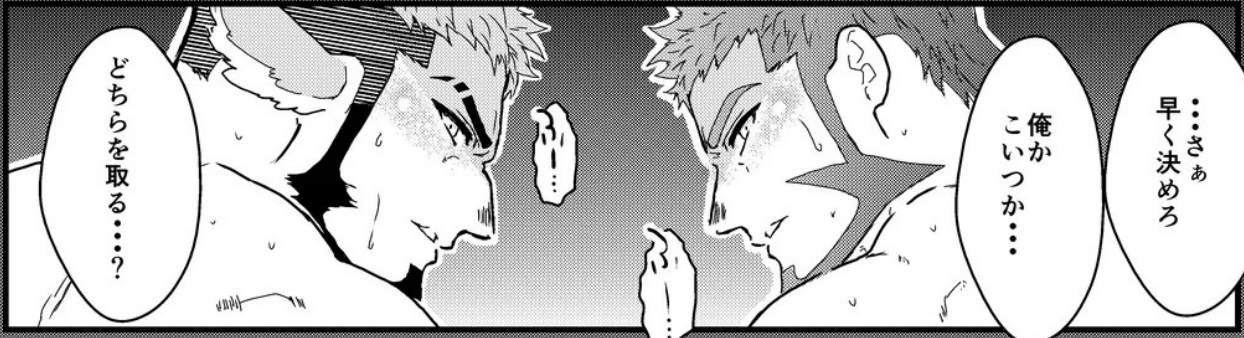
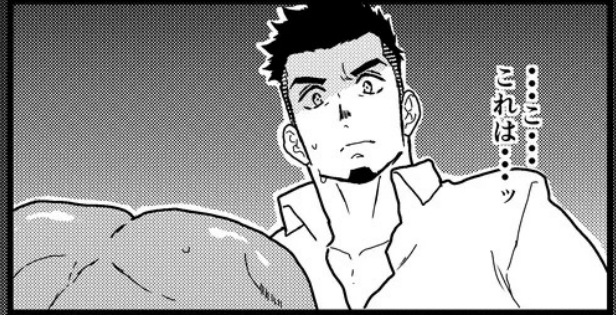


これ以上
タイタンごときに
勇者を奪われて
たまるか

俺か
タイタンか

さっさと決めやがれ
勇者…







これが
答えだ...ッ

見ろ
タイタン...ッ

やはり勇者は
私を選んだ...ッ

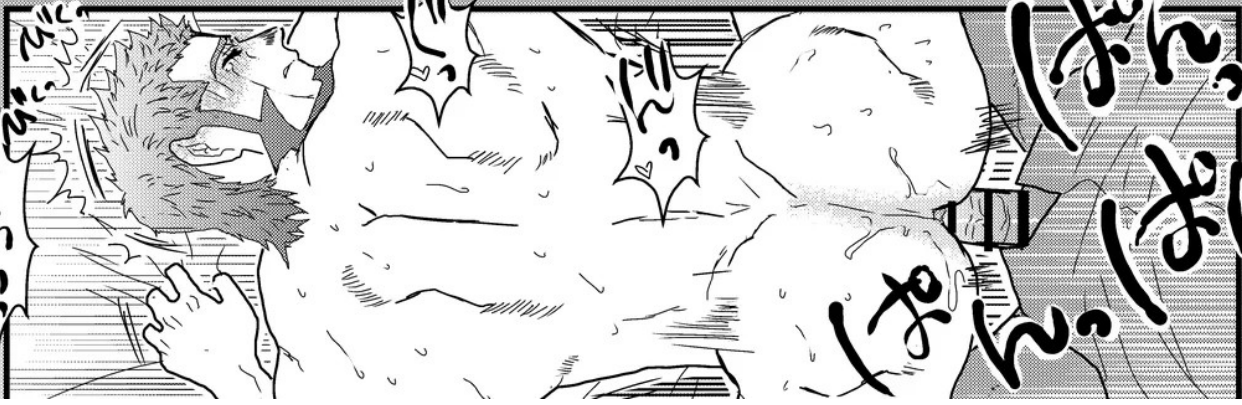


...んだと...ッ



強すぎる...ッ

しゅう...ッ





ゆう...しやッ

かくなる上は...ッ

両方とも
食いつくすのみ!!!

おっ

あーっ

おっ

あーっ

あーっ

おっ

あーっ

おっ

あーっ

あーっ

あーっ

おっ

あーっ

おっ

あーっ

おっ

あーっ

おっ

あーっ

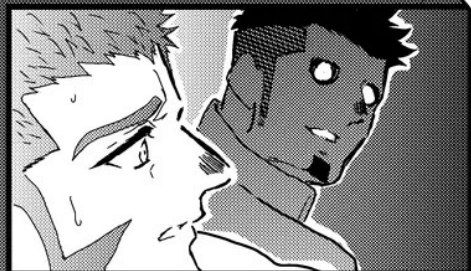
おっ

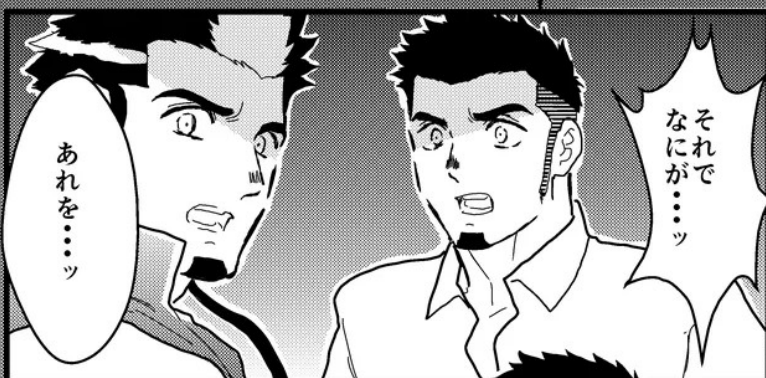
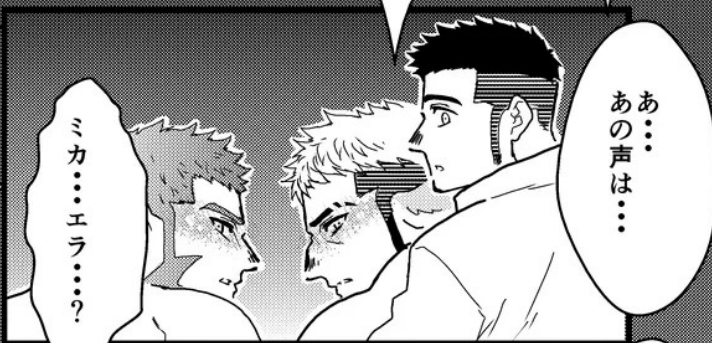
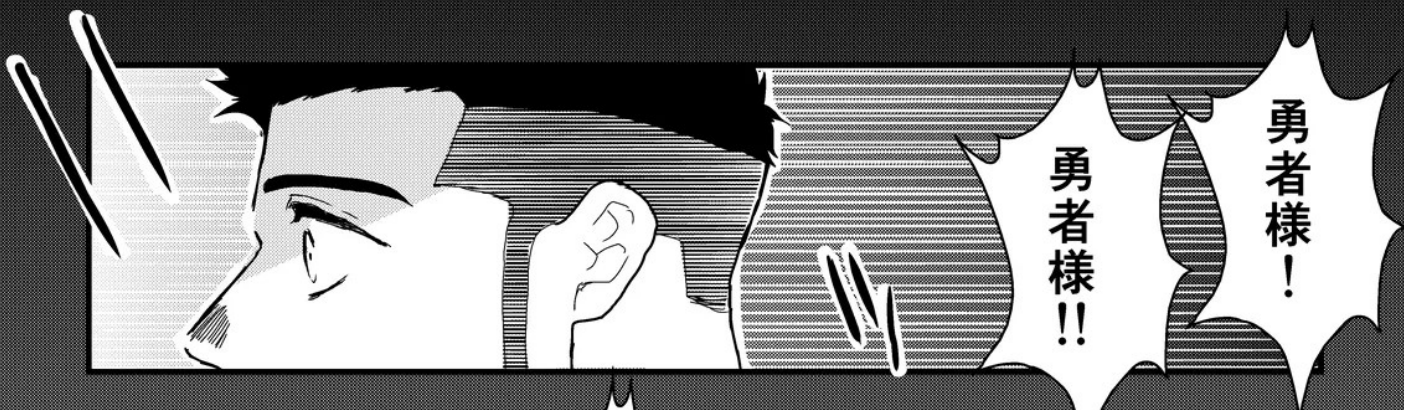
あーっ

あーっ

あーっ

あーっ



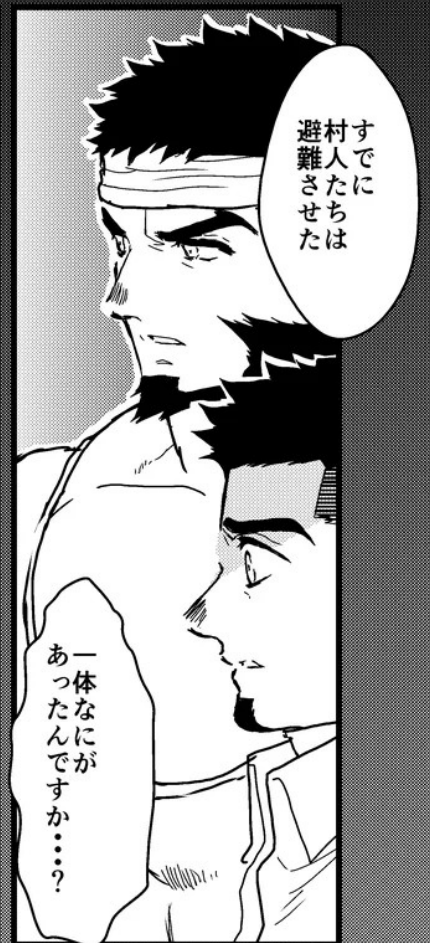




あの鍛冶屋が
いきなり
暴れだしたんです

たぶん...

何者かによって
操られていると...



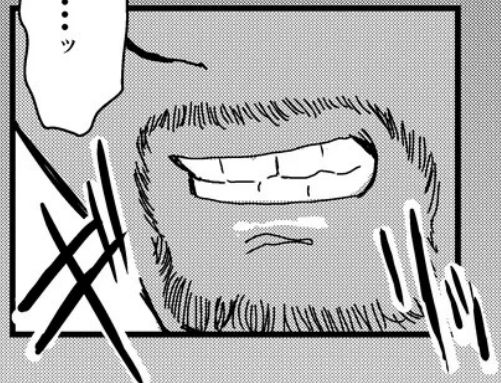
すでに
村人たちは
避難させた

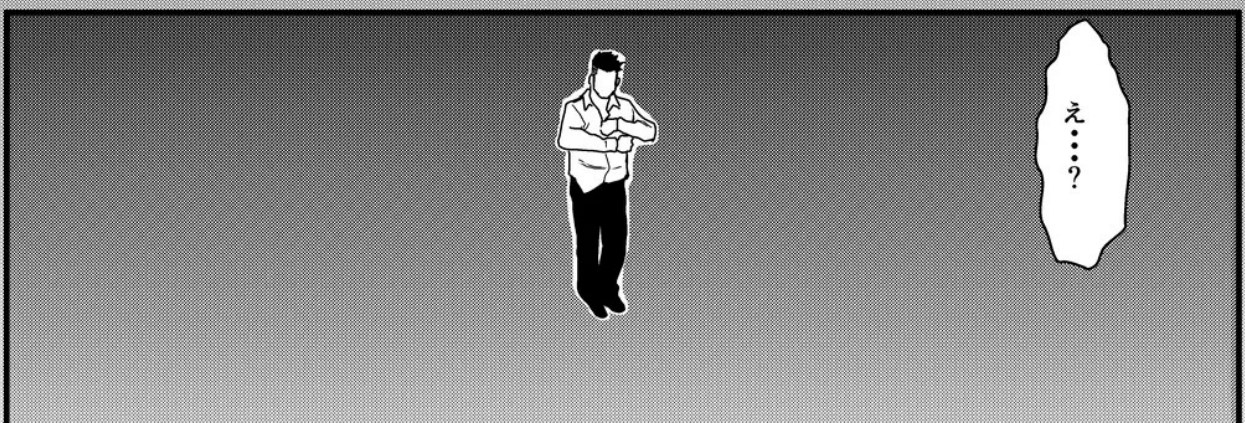
一体なにが
あったんですか...?

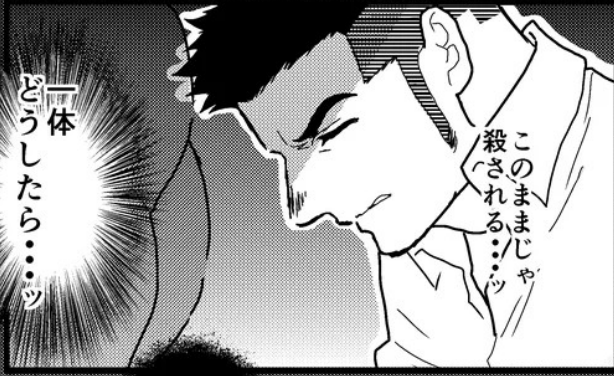


操られてるって...

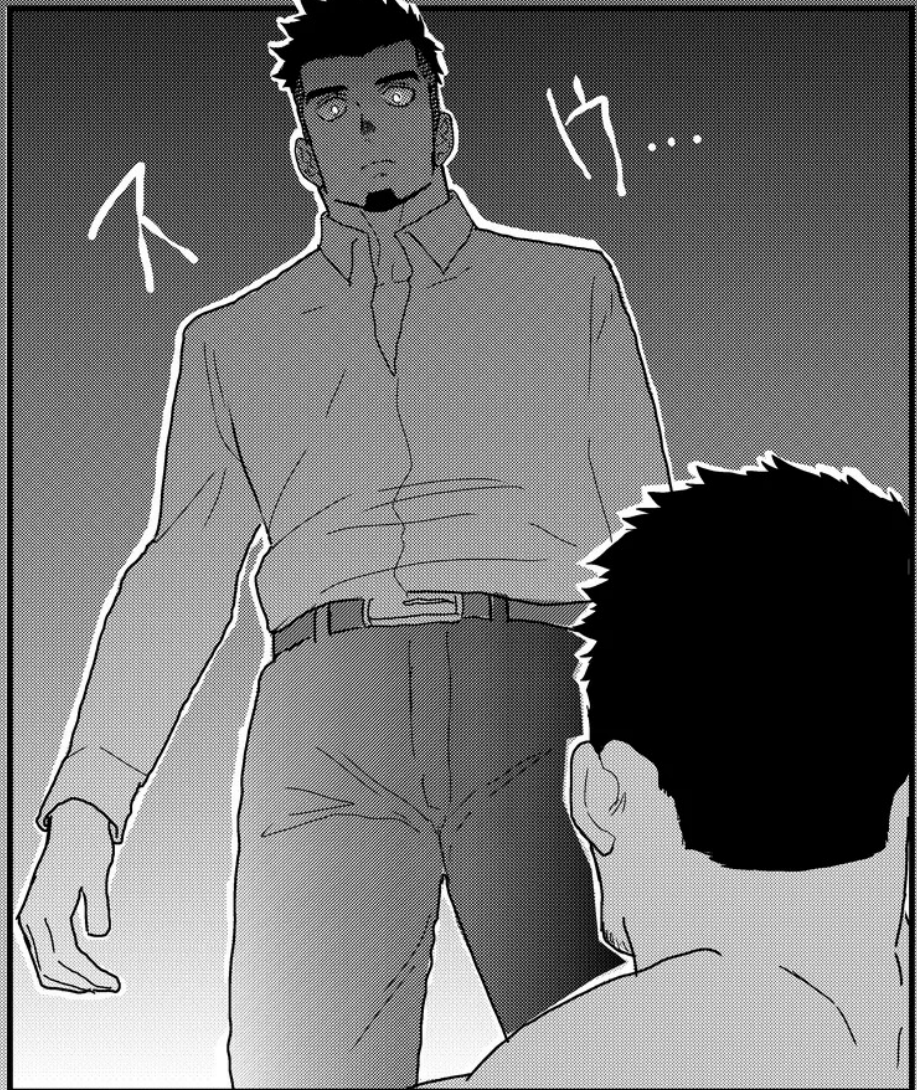
誰に...ッ















大人しくしろ

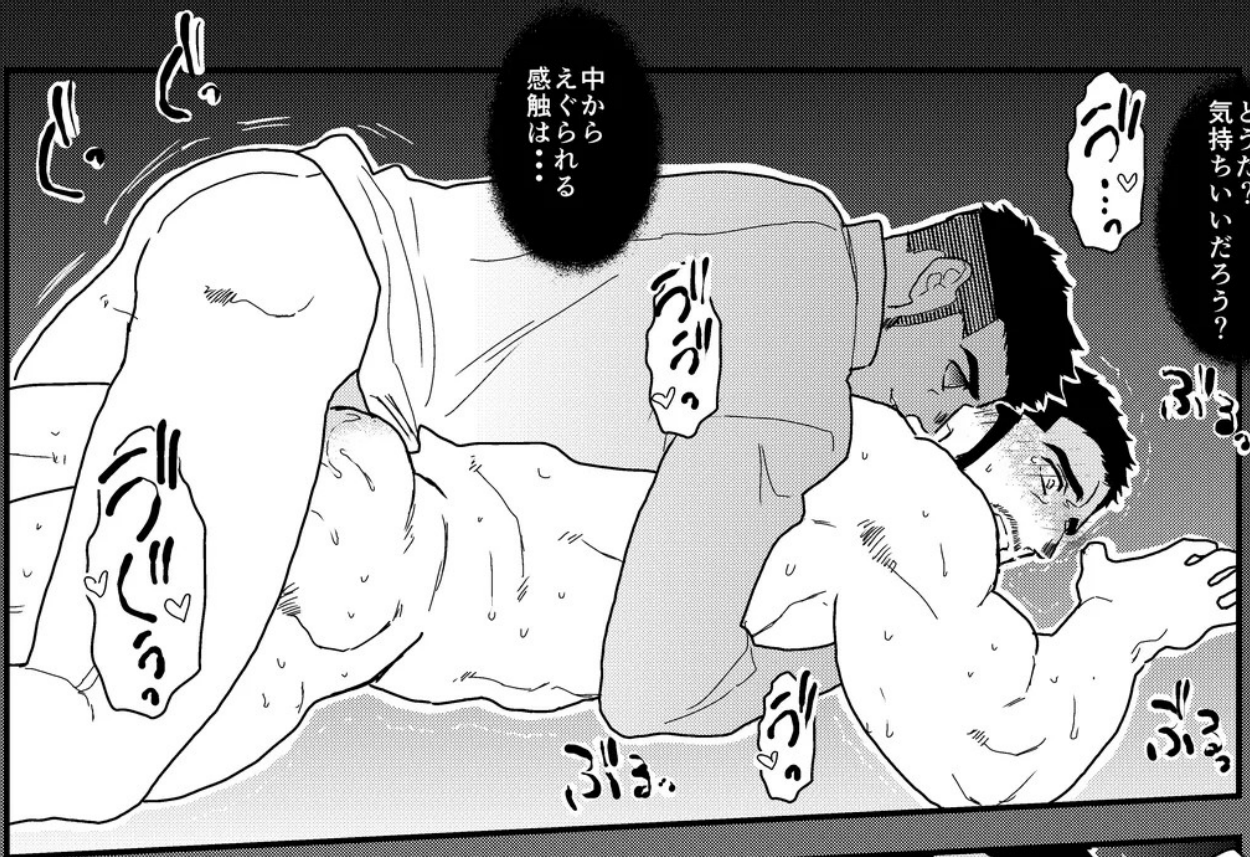
俺に従えば

……ッ

すぐ
気持ちよく
してやる



あー
あー



中から
えぐられる
感触は...

どうだ？
気持ちいいだろう？



お...れは
女じゃッ

く...そ...ッ



女じゃ
ないなら...

今こうして
男に突かれて
喘いでるのは
誰なんだ...?

はっ
ふっ
はっ
ふっ

はっ
ふっ

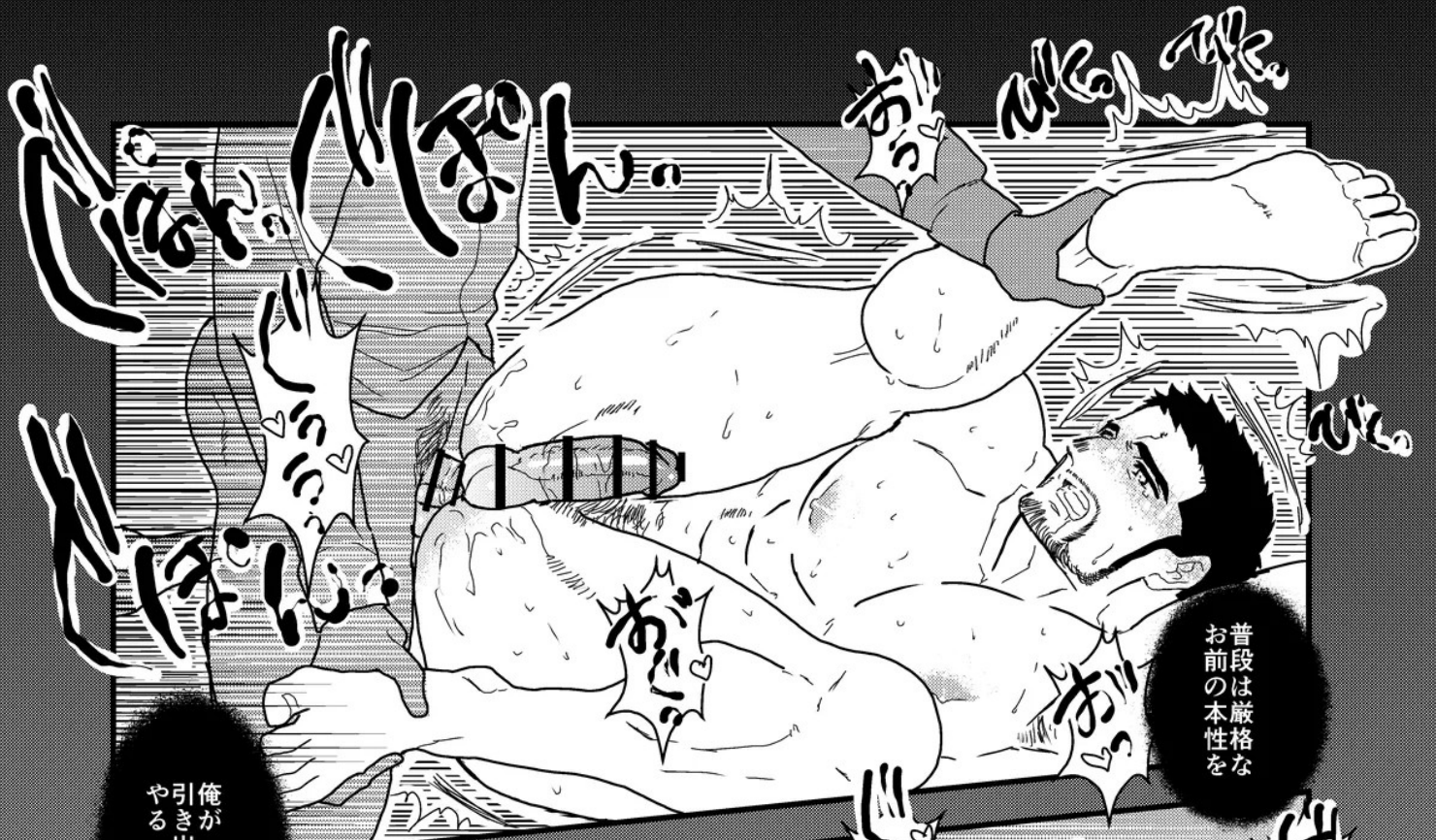


身体は
正直なようだな

どれだけ
頭で拒んでも

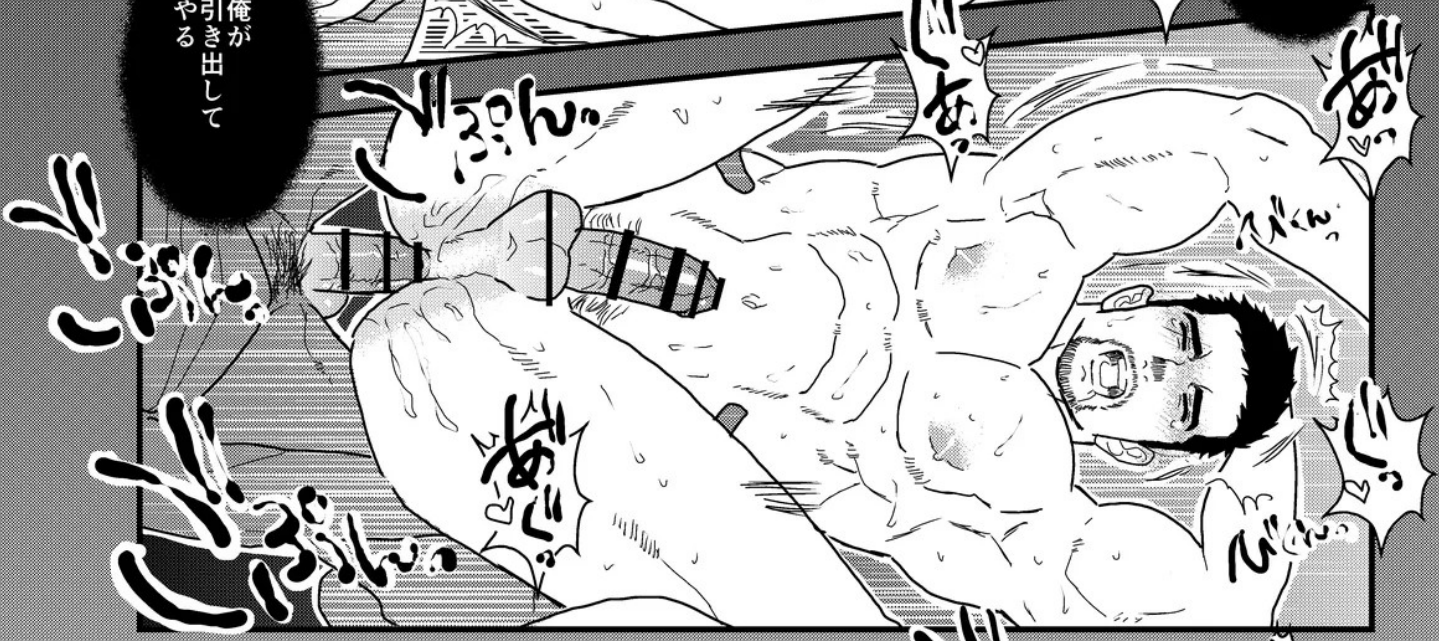
あゝあゝあゝ
うわあ
あゝあゝあゝ
うわあ
あゝあゝあゝ
うわあ

あゝあゝあゝ
うわあ
あゝあゝあゝ
うわあ
あゝあゝあゝ
うわあ



普段は厳格な
お前の本性を

俺が
引き出して
やる

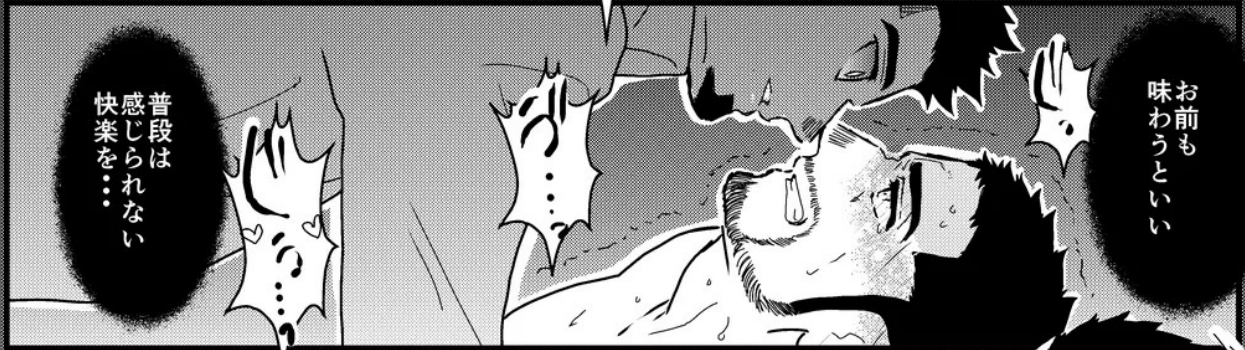


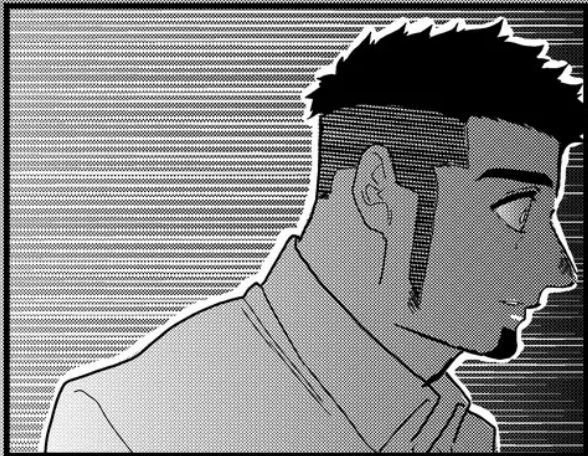


そろそろ
お前も
欲しくなっ
てきたら
どう

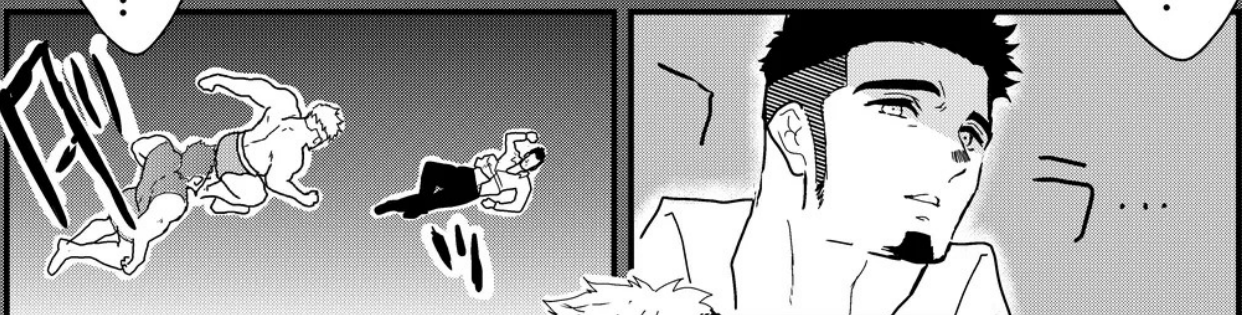
俺が
沢山
刷り
込んで
やる...

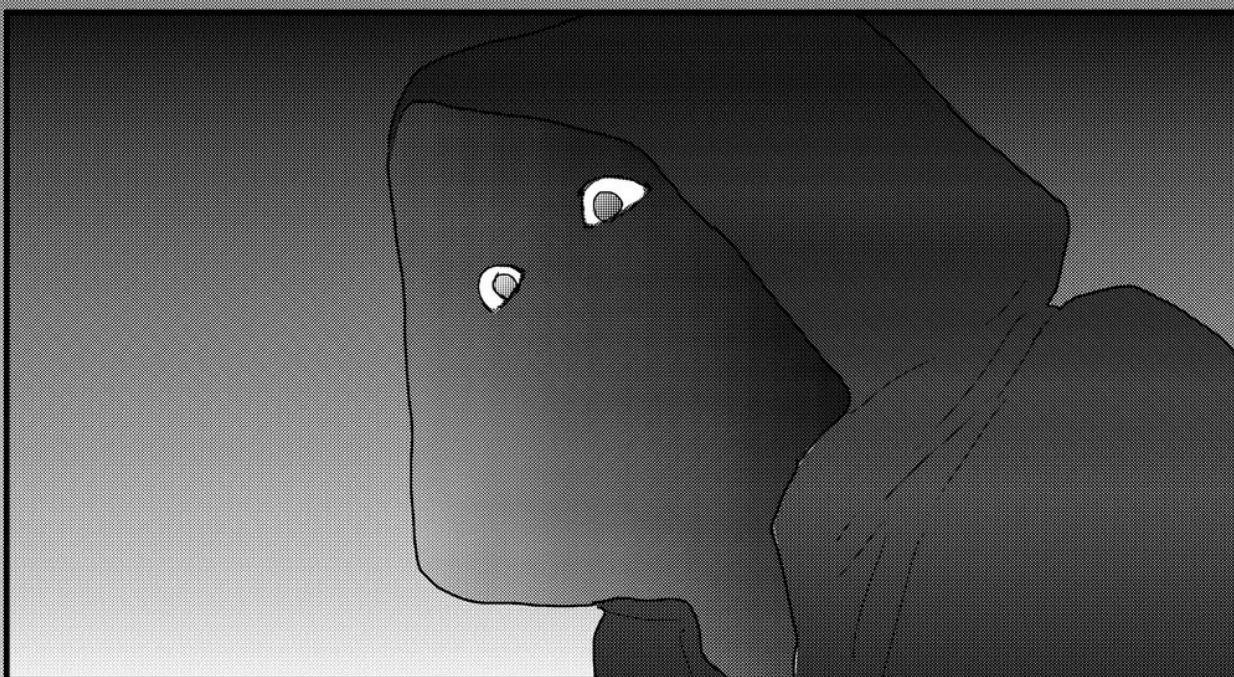
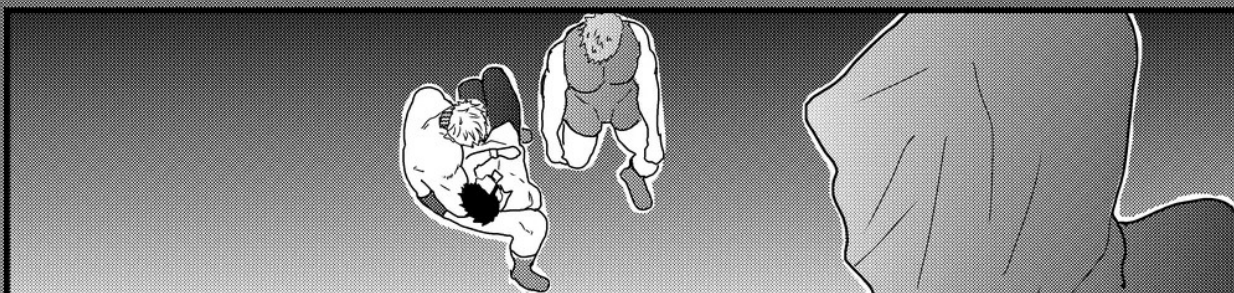


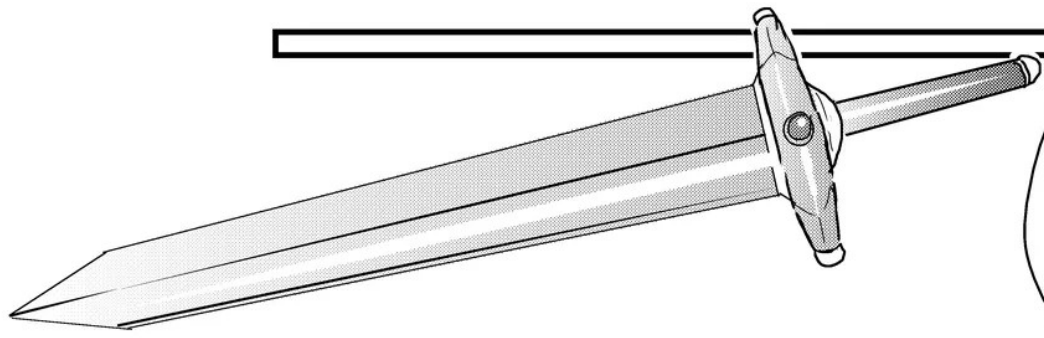




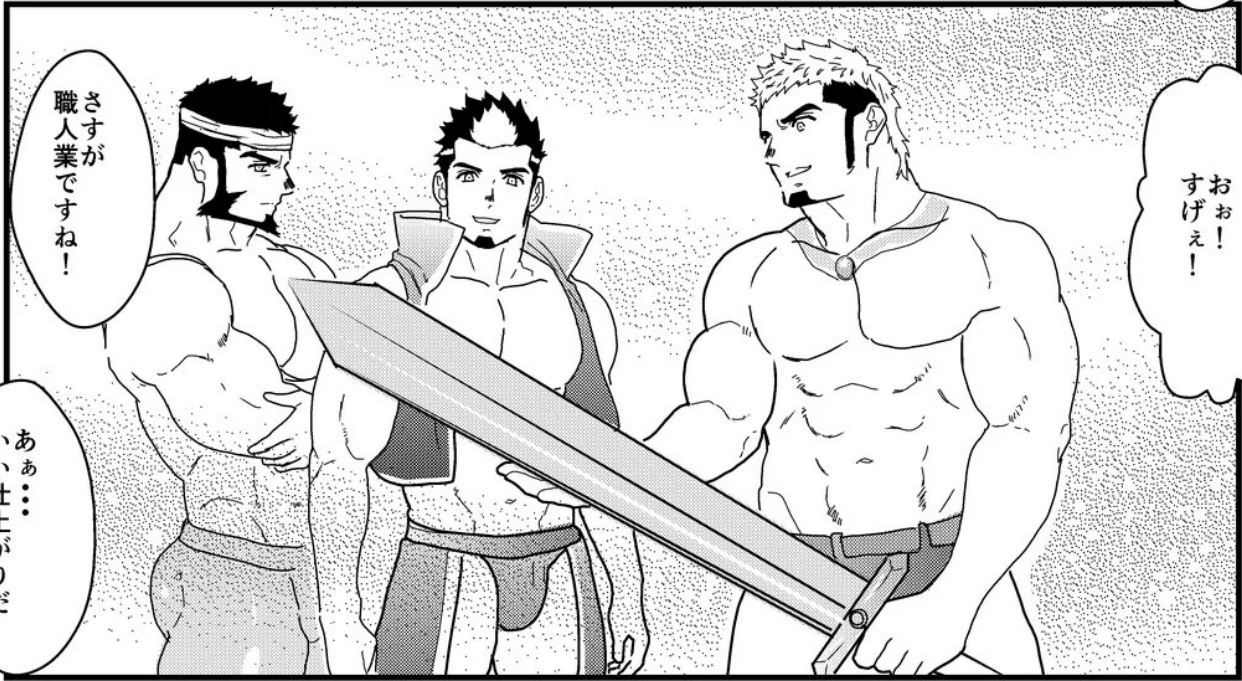








約束の品だ



さすが職人業ですね!

おお! すごい!

ああ... いい仕上がりだ



やはり操られたのか

ああ... 俺も自分が何故暴れたのかまったく...



昨日は... すまなかった

村人から聞いて... お前たちに迷惑を...

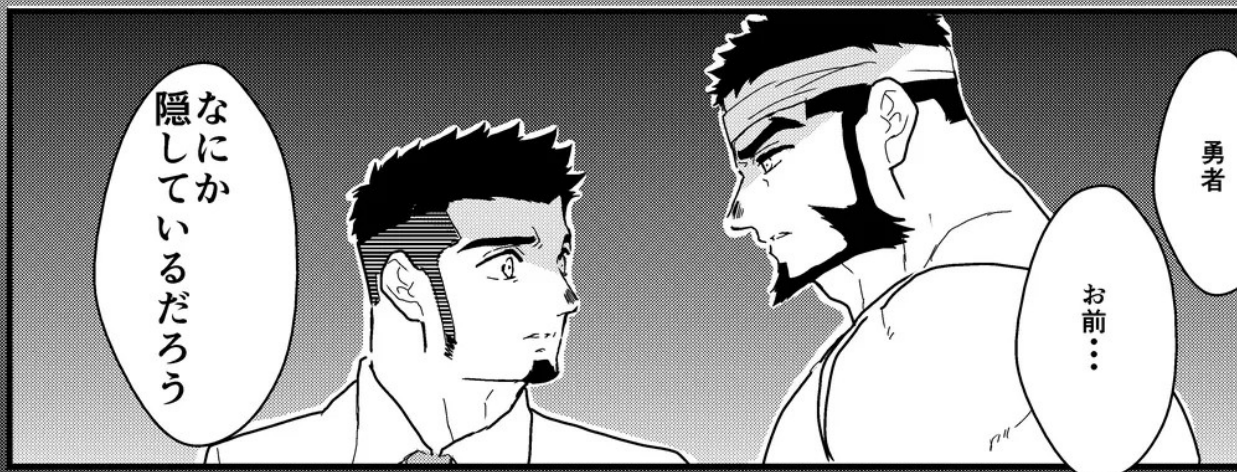
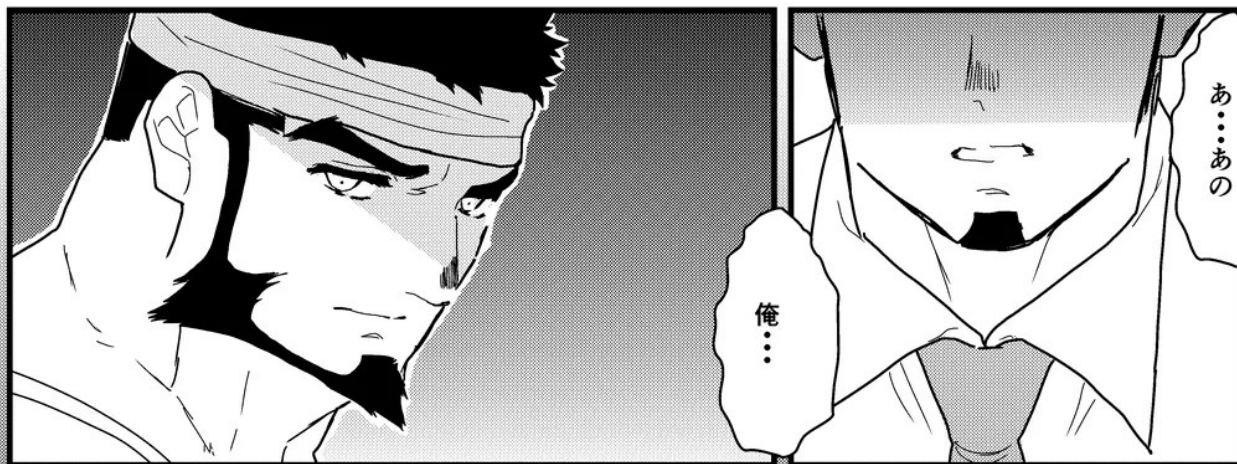
...やはり記憶には残っていないのですね



...

気にしないでください

貴方に非はまったくないのですから...





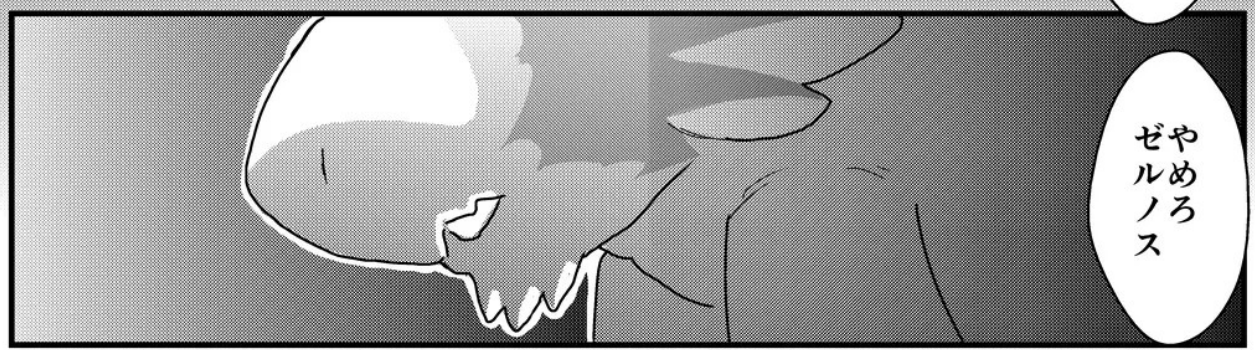
ゼルノス
いきなりなにを...

そうです
勇者様が
一体なにを
隠して...

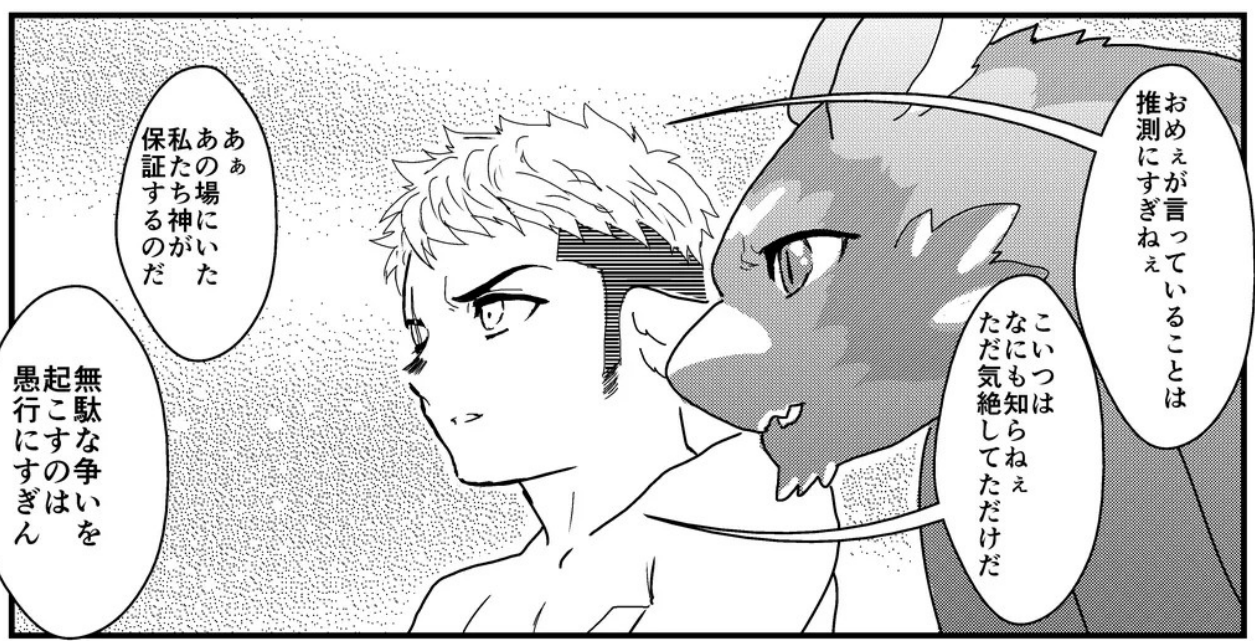
お前には
妙なおいがある

まさか
お前は...

...



やめろ
ゼルノス



おめえが言っていることは
推測にすぎねえ

こいつは
なにも知らねえ
ただ気絶してただけだ

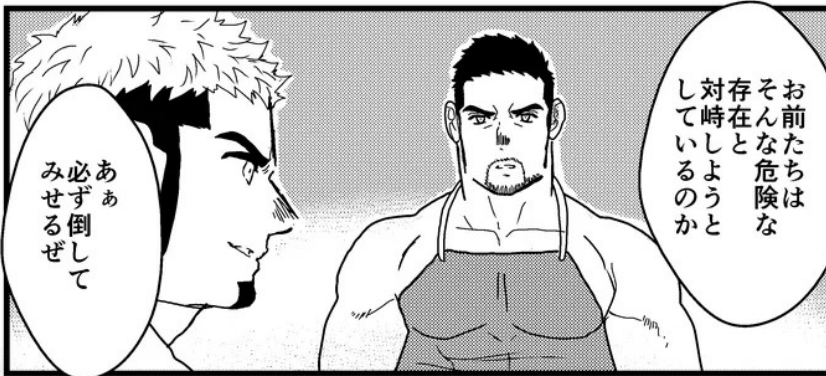
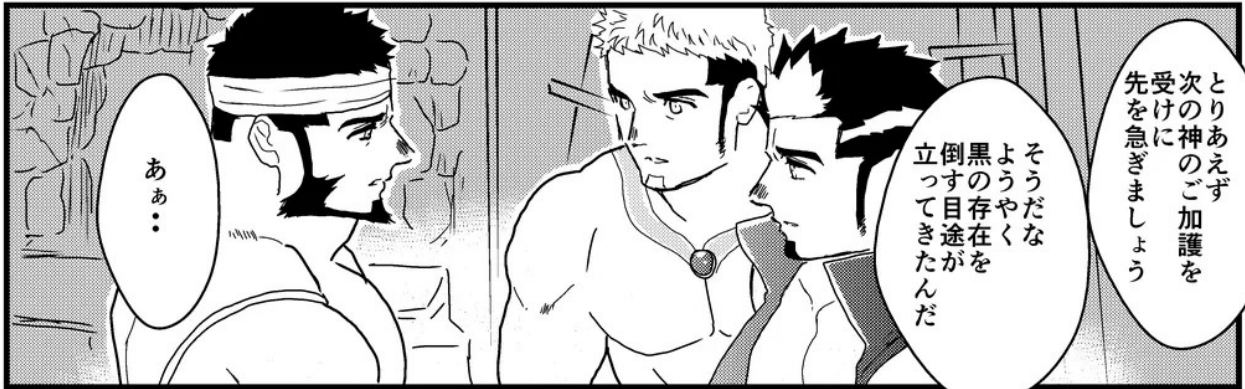
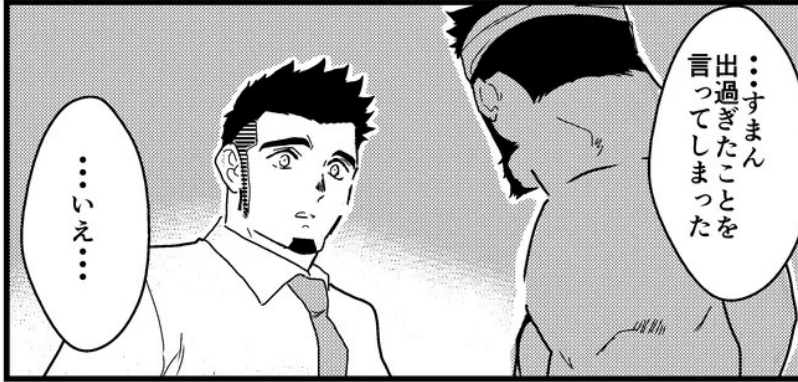
ああ
あの場にいた
私たちが神が
保証するのだ

無駄な争いを
起こすのは
愚行にすぎん



リヴァイアさん...

タイタンさん...





俺は鍛冶屋だ

お前たちのような
冒険者を
支えるのが俺の義務
だと思っている

だから

今ここにある
武器から
好きなものを
選べ

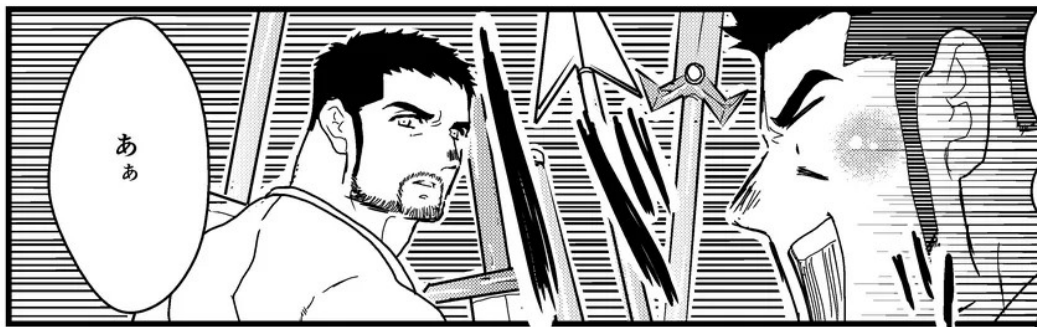
もちろん
代金はいらねえ

ここにあるのは
すべて俺の魂をこめて
作ったものたちだ

お前たちの
旅に加護が
あらんことを
祈る



え!!
なんでも
好きなもの
選んでいいの!?

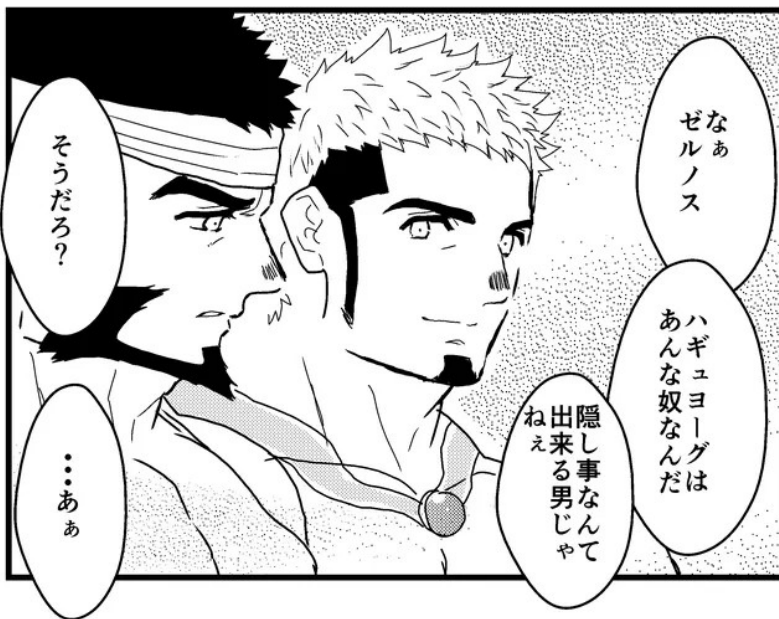


ああ



やったー!
俺も武器とか
欲しかったんだ〜!

ゆ……
勇者様……ッ



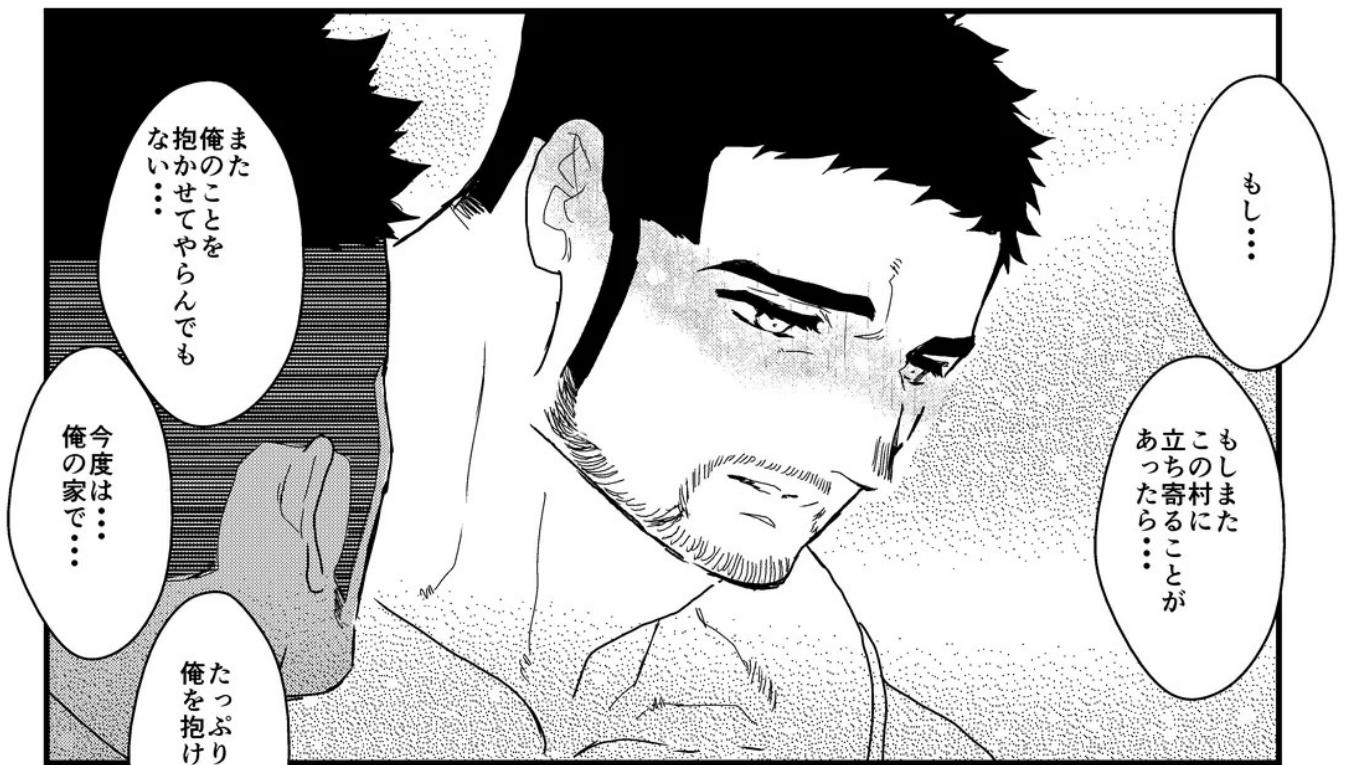
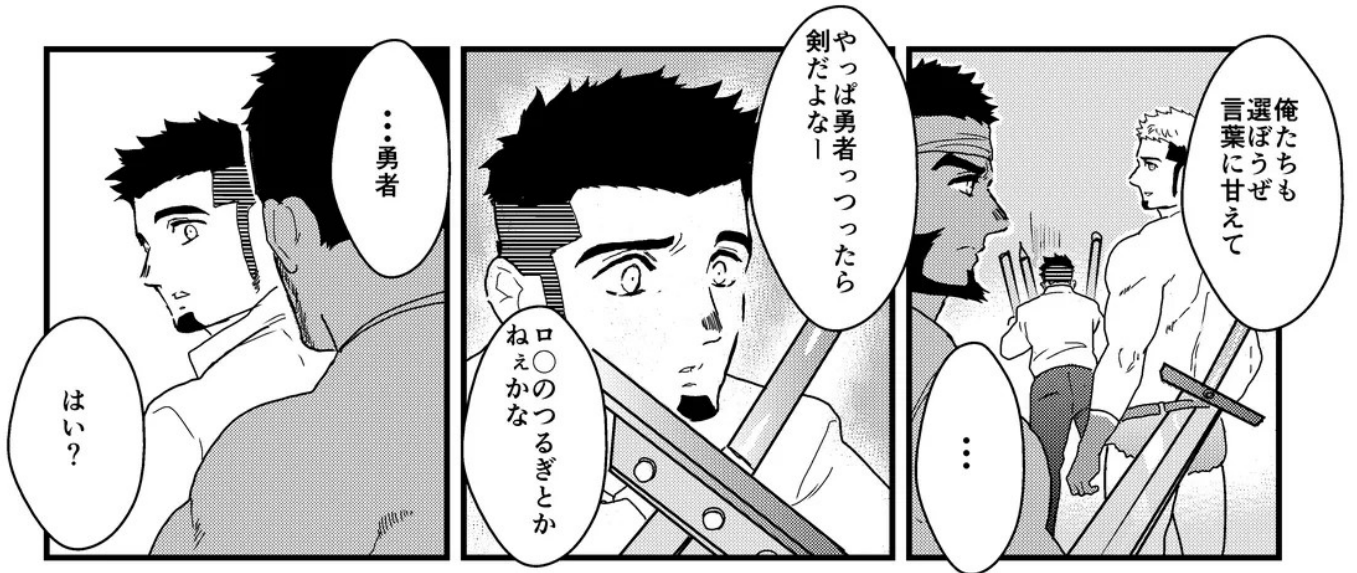
なあ
ゼルノス

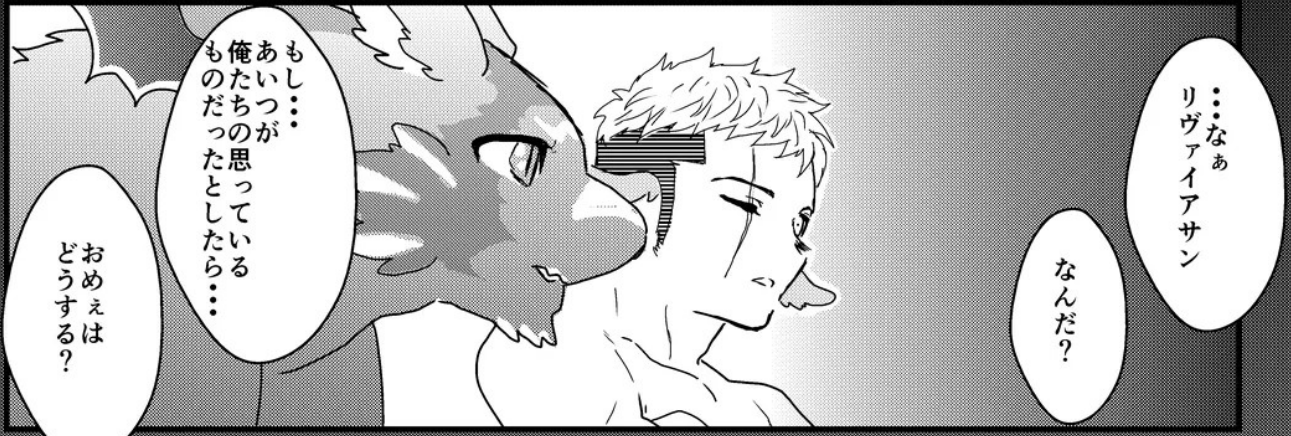
ハギユヨグは
あんな奴なんだ

隠し事なんて
出来る男じゃ
ねえ

そうだろ?

……ああ



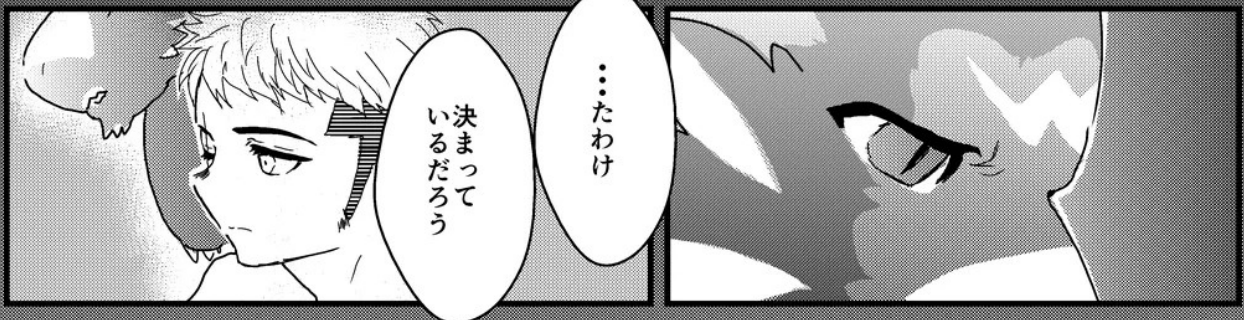


…なあ
リヴァイアサン

なんだ？

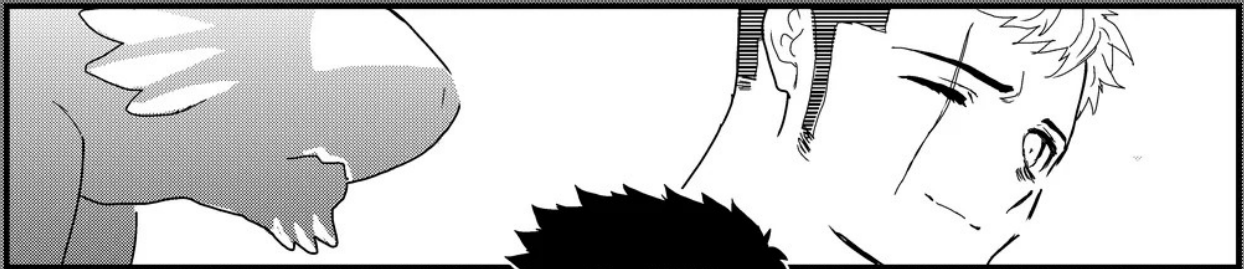
もし…
あいつが
俺たちの
思っている
ものだった
としたら…

おめえは
どうする？



…たわけ

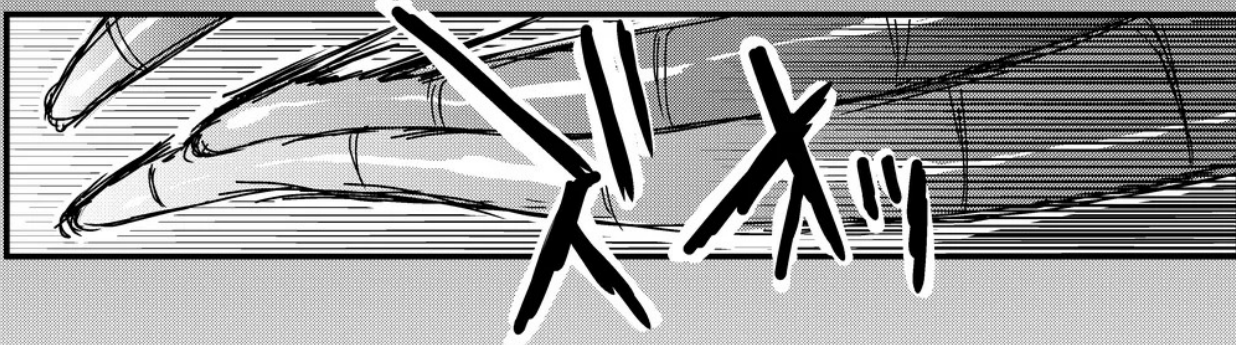
決まっ
てるだ
らう

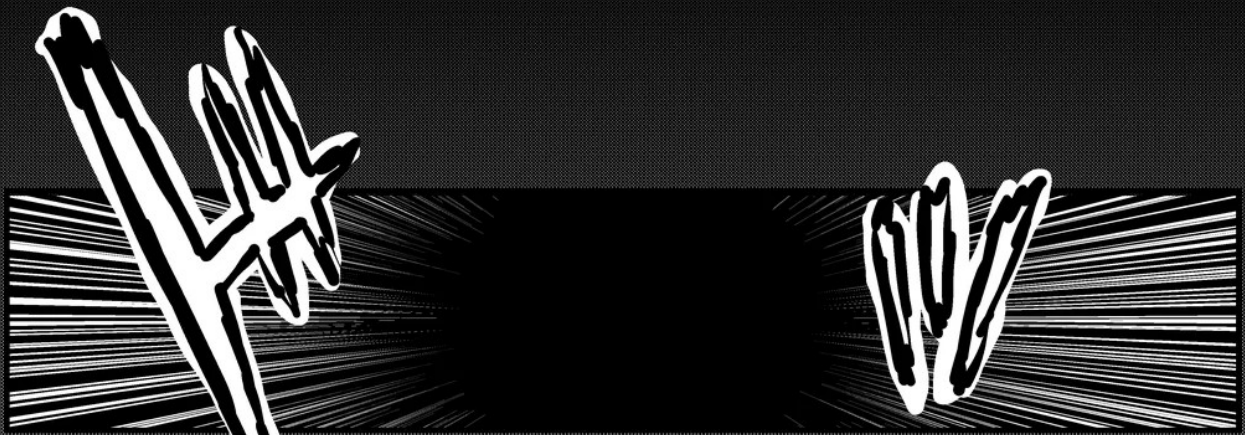


そうだよな…

その時は

俺たち
神の名に
おいて…





俺の邪魔を
するな

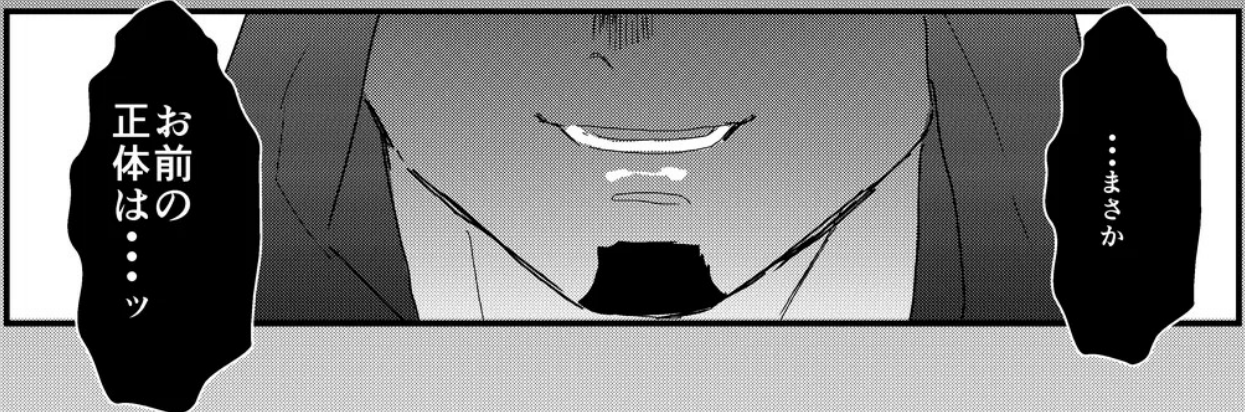
これは
最後の
忠告だ



……な……に……

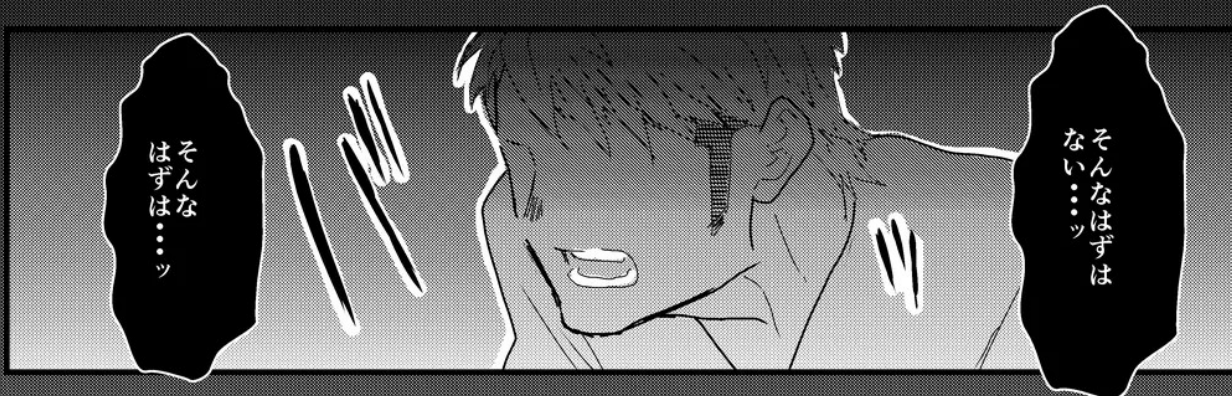
お前は
知らない
だろうが……

お前と俺は
一度会っている



お前の
正体は……ッ

……まさか



そんな
はずは……ッ

そんなはずは
ない……ッ



ニヤ……

……かき……



楽しみは
これからだ……